

背景は昭和31年1月号『熊野』表紙

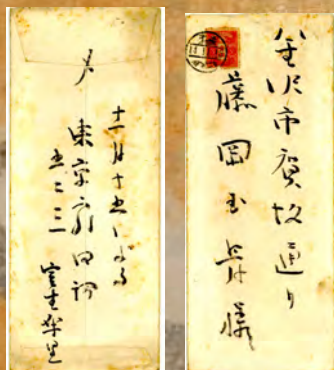
樫野南陽画

熊野



俳人・平松いとゞ86歳の写真

句集「友情園」(昭和49年)より



室生犀星の書簡(大正14年)

藤岡玉骨が手刷りした「熊野牛王宝印」とその版木(藤岡家所蔵)、それを贈ら
れた室生犀星からの手紙(東京田端 文士村・暮笛庵より)を公開します

平松いとゞ・俳誌「熊野」

平成28年1月5日(火) ～ 3月26日(土)

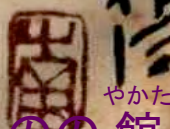
登録有形文化財「藤岡家住宅」展示のご案内

登録有形文化財「藤岡家住宅」管理法人・NPO法人うちの館

〒637-0016 奈良県五條市近内町 526 電話とファックス 0747 (22) 4013

info@uchinono-yakata.com

<http://www.uchinono-yakata.com>



平松いとゞ（ひらまついとど）・俳誌『熊野』

平成28年1月5日（火）から3月26日（土）まで

登録有形文化財「藤岡家住宅」展示室

午前9時～午後4時・月曜休館（月曜が祝日のときは開館して翌日休館）

大人300円・小人200円 20名様以上2割引

登録有形文化財「藤岡家住宅」では 官選知事であり「ホトギス」派の俳人であった藤岡玉骨（^{ふじおかぎよつこつ}明治21年～昭和41年）の忌日（3月6日）頃毎年開催される「藤岡玉骨記念俳句大会」に合わせ、1月～3月、当に残る俳人の資料を順に紹介しています。藤岡玉骨の俳句会における交友関係は広く、これまで、当家所蔵点数の多い高浜虚子、阿波野青畝、後藤夜半、森田峠らの作品を公開してきました。今回は、俳誌『熊野』（大正10年4月和歌山県新宮にて創刊）を主宰した平松いとゞ（明治21年～昭和53年）の作品と、当に残る218冊の『熊野』を紹介しします。いとゞの名は^{いとど}竈馬と表記することもあり、これはカマドウマ科の昆虫エンノシタコオロギ（別名・オサルコオロギ、エビコオロギなど）を意味しています。いとゞは、句集『友情園』のあとがきに、次のような文章を記しています。

—— 私は幼にして両親を失い、一人の叔父と祖母をたよりにはぐくまれ貧しい生活の中から一人前の商人にならねばという叔父のしつけでありました。旧制の高等小学校を出ると直ぐ木材問屋に勤め、二十一歳の徴兵検査の結果を待つて、^{くもんさんたん}独立苦悶惨憺の上今日に至つたものであります。私は明治二十一年生れの八十六歳、この句集はその生活の日記であり、私の略歴でもあるのであります。尚申し述べたいことは、去る昭和三十四年九月駅前店舗類焼のため、原稿にも多少の漏落あるは誠に遺憾なれど、大虚子先生と青畝先生の選のみにて編纂することの出来たことを、いささか自負する感をもつものであります。

友情園主 平松竈馬 ——

いとゞが、高浜虚子らと藤岡家に宿泊した際、句帳「春の塵」に残した句は「十津川もなかなか広し杉を植う」

阿波野青畝、富岡犀川らと当家の句帳「竹酔道酒」に残した句は 「子に生きてまた孫に生き杉を植う」

熊野の滝の四季を詠んだ句は黒漆の箱に入れて当家に贈っていました。春の滝「大滝やはるかに花の廂より」、夏の滝「盃のような滝壺見下ろされ」、秋の滝「おばしまやさし出せし手に月の滝」、冬の滝「酒すすするような音して冬の滝」。いとゞは、藤岡玉骨と同じ年齢で、華やかな官僚の人生を選んだ玉骨と対照的に、雄大な熊野に自身を置いて自然を詠み続けた人でした。（展示資料・俳誌『熊野』218冊 いとゞ直筆 掛軸・短冊・句帳・はがきなど）

平松いとゞ（竈馬）明治21年（1888年）9月9日～昭和53年（1978年）7月31日 没年89歳 本名義彦。大正6年（1917年）「ホトギス」に参加。大正10年（1921年）「熊野」創刊・主宰。昭和17年（1942年）「かつらぎ」に参加。昭和13年（1938年）句集「熊野路」ほか

^{くまのごおうほういん}

^{むろうさいせい}

^{ぼてきあん}

熊野牛王宝印について・室生犀星（文士村暮笛庵）よりの手紙

大正14年11月11日。金沢市広坂通りの藤岡玉骨（当時 石川県警察部長から長野県警察部長に転任）宅に室生犀星から1通の手紙が届いています。これは玉骨が藤岡家所蔵の「熊野牛王宝印」の版木を手刷りして犀星に贈った礼状で、犀星は東京田端の文士村、暮笛庵に住居していました。暮笛庵は犀星が特に愛したという庵で、名作が次々に生れた場所と言われています。牛王宝印を受け取り「これは俳句集の見返しに使ったらきっと面白いと思います」という感想が印象的です。「熊野」にちなみ、犀星直筆の書状と藤岡家所蔵牛王宝印版木を公開します。

室生 犀星・本名 室生 照道（てるみち）明治22年（1889年）8月1日～昭和37年（1962年）3月26日 没年72歳。石川県金沢市生まれの詩人・小説家。別号に「魚眠洞」